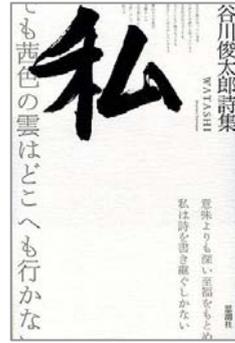


高浜市立図書館

- 私「谷川俊太郎詩集」
- 谷川俊太郎
- 思潮社



「光の胞子を撒き散らして力いっぱい手をふっている 行つてはいけないう言われているほうへ 少年は行かずにいられない（雲の道しるべ）」より 谷川さん本人の自己紹介から始まる「私」と題されるこの詩集は人間の持つあらゆる感情や、肉体が受ける感覚を「ことば」だけでは表せないと叫んでいるようです。半世紀以上のあいだ言葉どもにもまれながら暮らしている、はげ頭の老人が、友人であった竹満徹さんにもまだ語り尽くせなかった世界があるようです。

高浜市立図書館

- ゲド戦記
- アーシュラ・K・ルIIグウィン／作
- 清水真砂子／訳
- 岩波書店



一人の才能あふれる魔法使いゲド。「ゲド戦記」全五巻、外伝一巻の中で、中学生の皆さんにぜひ読んでもらいたいのが第一巻「影との戦い」です。ロークの魔法学院に学ぶ少年ゲドが、おごりとねたみの心から呼び出してしまった「影」。彼は「影」に追いつかれますが、師・オジオンの助言で逆に「影」を追跡しついに戦いに決着をつけます。その決着のつけ方とは……。私にとって「自分とは何か」を見つめるきっかけとなった大切な一冊です。

一色学びの館

- ストライブ
- デヴィッド・シャノン／作
- 清水奈緒子／訳
- セーラー出版



カメラはいつも人の目ばかり気にしている女の子。本当はリマ豆が大すきなのに、学校のみんながきらいだから自分も食べないカメラ。新学期の朝、格好を気にして服を次々に着替えていたカメラの体が、色とりどりのストライブに！ それからドンドン症状はひどくなり……。「自分らしく生きる」というのがこの本のテーマ。人と違っても自分は自分、みんなに合わせてなくてもありのままの自分でいいんだよ。

一色学びの館

- いちご同盟
- 三田誠広
- 河出書房新社



「同盟を結ぼう。おれたちは十五歳だから、一五同盟だ。男と男の約束だぞ。」良一はある日、野球部のエースで、校内でも有名な徹也に、明日の試合をビデオに撮ってくれと頼まれます。その日は聴音のレッスンがありました。徹也が真剣なので、引き受けることにしました。徹也がビデオを見せたい相手は、不治の病と戦う少女、直美でした……。将来の夢や希望、不安のなかで、十五歳の少年が見つめる生と死、友情と愛の物語。

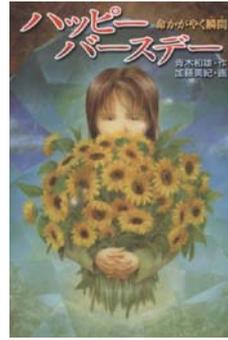
吉良町立図書館



- 詩のころを読む
- 茨木のり子
- 岩波書店

いい詩には、人の心を解き放つてくれる力があります。また、生きとし生けるものへのいとおしみの感情をやさしく誘いだしてもくれます。この本では、長いあいだ詩を書き、ひとの詩もたくさん読んできた著者が、今なおふくいくとした香りを保ち、心を豊かにし続けている詩の中から、忘れがたい数々を選び出し、その一つ一つに情熱をこめて語ります。ことばの花々にふれて、きつと詩の魅力にとらえられることでしょう。

吉良町立図書館



- ハッピーバースデー
- 命かがやく瞬間
- 青木和雄／作
- 加藤美紀／画
- 金の星社

十一歳の誕生日、「生まなきやよかつた」という母のひと言に、あすかは声を失います。心を閉ざしたあすかですが、祖父母の家で、愛と自然に包まれて、やがて力を取り戻していきます。幼い頃の心の傷からあすかを愛せない母。両親の言う通りの人生に疑問をいだく兄。自分のことしか考えられない父。そんな家族が、あすかを中心に、やがて一つになっていきます。人にとって大切なものは何か、ということを教えてくれる一冊です。

幡豆町立図書館



- ナゲキバト
- (新装改訂版)
- ラリー・パークダル／作
- 片岡しのぶ／訳
- あすなる書房

ある春の日、交通事故で両親を失った九歳の男の子ハニバルは、おじいさんに引きとられます。それから冬までの間に、苦しい試練や泣きたいような出来事に何度もあいますが、おじいさんに見守られながら少しずつ成長していきます。困難が立ちただかった時、思うように生きられなかった時、あなたは どうして いますか？ この本はみなさんにとって、生きていくことの意味や、人のやさしさについて教えてくれる、かけがえのない一冊です。



幸田町立図書館

- 復讐プランナー
- あさのあつこ
- 河出書房新社



「いじめ」をなくすことは至難。でも、いじめの側や傍観者になりたくない人は復讐しゅうプランナーの仲間になろう。ふとしたきっかけでクラスメイトたちからいじめを受けることになった雄哉。弱っていく雄哉の前に現れたのは、「じゃあ、復しゅう計画を立ててみれば。」と言う先輩だった。

いじめから抜け出す方法をこの本を読みながら一緒に考えよう。いろんな道が見つかるはず。復しゅうプランナーになるための養成講座は特におすすめです。

幸田町立図書館



- エンデュアランス号大漂流
- エリザベス・コーデー・キメル／作
- 千葉茂樹／訳
- あすなる書房

一九〇〇年代初頭。エンデュアランス（不屈の精神）号のシャクルトン船長と乗組員総員二十八名は、南極大陸を目前に沈没し、全員氷の世界に投げ出されてしまいます。しかし二年後、奇跡的に全員生還するという本当にあったお話です。百年も昔に南極で彼らはどのように生き延びたのか。「あきらめない」気持ちだけを支えに、数々の難関を乗り越えていく彼らの姿に励まされます。シャクルトン船長の英知と勇気が、生きる希望を与える場面に感動できる作品です。

三好町立中央図書館

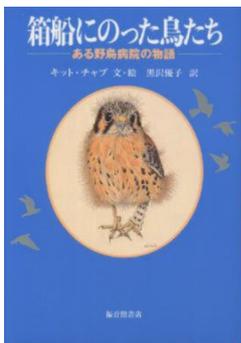


- 冒険者たち
- |ガンバと15ひきの仲間|
- 斎藤惇夫／作 藪内正幸／画
- 岩波書店

町ネズミのガンバは、友達のマンブクに誘われて、船乗りネズミの集まりに参加します。そこで、島ネズミ忠太から、故郷「夢見が島」のネズミたちが、イタチに滅ぼされそうになっていることを知り、彼らを救うため立ち上がります。

初めて見る海。個性豊かな十五ひきの仲間たちとの旅。強くてずる賢いノロイ率いるイタチたち。小さなネズミたちの大きな友情と冒険の物語です。

三好町立中央図書館



- 箱船にのった鳥たち
- |ある野鳥病院の物語|
- キット・チャブ／作・画
- 黒沢優子／訳
- 福音館書店

野鳥病院「鳥の箱船」は、正式名を「鳥類救護研究財団」という、病気やけがをした野鳥のための病院です。

一九七八年に、この病院を設立したキット・チャブとその夫ロビン は、独学で救護を学び、たくさんの人々の善意に支えられながら、長年にわたって数千羽の鳥を治療してきました。

野鳥保護に一生を捧げた夫婦と鳥たちとの感動の記録です。

豊橋市中央図書館



- 香港の甘い豆腐
- 大島真寿美
- 理論社

「あの頃の私はとても疲れていた。疲れて疲れて死にそうだった。」十七歳の夏休み、彩美が母親に連れていかれた先は香港。旅行の目的は、顔も知らない父親に会うこと。だけど初めての香港はわけのわからないことばかり。もつと香港を楽しみたい、ここにいたい！ 彩美の思いから物語は動き始めます。知らない国、知らない人々との出会いによって彩美が気づくのは、見失っていた大切な気持ち。乾いた心にさらりとしみこむ水のような一冊です。

豊橋市中央図書館



- アルケミスト
- ー夢を旅した少年ー
- パウロ・コエリョ／作
- 山川紘矢、山川亜希子／訳
- 角川書店

彼を待つ宝物があるという夢を信じ、スペインからエジプトのピラミッドに向けて旅に出る少年、サンチャゴ。アフリカの砂漠を越える厳しい旅路を、自分の運命を信じて突き進みます。少年は、さまざまな出会いと別れのなかで、人生や世界について理解していきます。「何かを強く望めば宇宙のすべてが協力して実現するように助けられる」心に響く言葉が至るところに散らばっていて、私たちに夢を実現する勇気を与えてくれます。

豊川市中央図書館



- 泣けない魚たち
- 阿部夏丸
- ブロンズ新社

矢作川を舞台に、子どもたちの成長を描いた三つのお話からできています。「泣けない魚たち」は、今まで平凡に暮らしていたさとるが、魚に詳しい転校生のこうすけと出会い、生きることのたいへんさを知り、成長していく物語。学校では口をきかない二人ですが、秘密の場所では何でも言い合える友達です。この本には自然がいっぱい詰まっています。外より家の中で遊ぶことが多いあなたに、草のにおいや川のせせらぎ、小さな命の鼓動を感じてほしいです。

豊川市中央図書館



- ローワンと魔法の地図
- エミリー・ロッダ／作
- さくまゆみこ／訳
- 佐竹美保／絵
- あすなる書房

この物語はファンタジーですが、主人公のローワンは、身体の小さな、気の弱い、怖がりの少年です。コンプレックスいっぱいローワンが、村を救うため、強くて勇敢な六人と共に、恐ろしい竜の住む山の頂上を目指します。そして旅を続けるうち、誰の心の中にも、弱い部分があることに気づくのです。もしも人と自分を比べて気持ちが悪く落ち込んでしまう時には、この本を手にとってみてください。小さなローワンが大きな勇気をわけてくれます。



蒲郡市立図書館

- 熱風
- 福田隆浩
- 講談社

気付かぬうちに築いてた自分の周りの壁に気づいたら、どうやってそれを乗り越えたらいいのだろう。耳の不自由な少年、孝司はテニスの楽しさに魅せられていた。ある日コーチから中山とダブルスを組むように指示される。はつきり言ってむかつくやつだった。言葉の通じない二人は反発するばかり。そんなとき中山の白い帽子の下の秘密がわかって……。壁を超えるのは自分の力と、助けてくれる誰かの力。そのことを教えてくれる一冊です。



蒲郡市立図書館

- わたしと小鳥とすずと
- 金子みすゞ
- JULA出版局

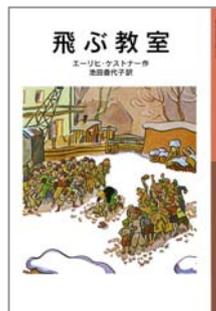
「みんなちがってみんないい」。それぞれの個性をありのまま肯定してくれる。この一文にはそんな力があります。自分なるとしよげていた日はありませんか。心に響くやさしい言葉が、がんばっているあなたを後押ししてくれます。「土と草」「こだまでしょうか」「夜ふけの空」など、自然のものすべてに対して、深い思いやりの言葉の数々が大きな感動を呼び起こします。心とは、言葉とは、自分とは。思春期の心の成長を助けてくれる作品です。



田原市中央図書館

- ぼくと英語とニワトリと
- 宮根宏明／作
- 横松桃子／絵
- PHP研究所

洋介は家業のニワトリの世話が日課のしつかり者。しかし中学校に入学早々、英語がわからない上、クラスでは浮いた存在になってしまいます。一度はヤケをおこしますが、クラスメイトの智子に助けられながら、その負けん気の強い性格で、問題に向き合います。洋介に影響された智子も、気弱な性格に変化が……。困難な状況でも、がむしゃらに頑張る人たちに勇気をもたらえます。ついでに英語を学ぶヒントも見つかるかも。



田原市中央図書館

- 飛ぶ教室
- エーリヒ・ケスト
- ナー／作
- 池田香代子／訳
- 岩波書店

ドイツの寄宿舎に暮らすマルティンたちはクリスマス前に行く劇の練習で大忙し。ところが、クラスメイトが近くの学校の生徒にさらわれたと聞いて、みんなで救出のために立ち上がります。学年主席で正義感の強いマルティンをはじめ、作家を夢見るジョニーやくいしん坊でけんかの強いマティアス、弱虫でちびのウリ、皮肉屋のゼバスチャンなど悩みを抱える個性的な少年たちが登場します。友達の大切さが感じられる心あたたまる名作です。

**小坂井町
中央公民館図書室**



- ラン
- 森絵都
- 理論社

「カラフル」の前作とも言える作品。両親・弟・叔母を亡くした天涯孤独の二十二歳、三浦環が主人公。その孤独を受け止めた自転車屋のおじさんにもらった自転車で、この世とあの世をつなぐレーンを走り抜け、懐かしい家族に会うことができました。けれども自転車は本来の持ち主に返さなくてはなりません。レーンの長さ四十キロを走り抜き家族に会うために彼女はトレイニングを始めました。スポ根物とは異なる、走りレーンとの向き合い方が面白いです。

**小坂井町
中央公民館図書室**



- 別冊図書館戦争 (I・II巻)
- 有川浩／著 徒花
- スクモ／イラスト
- アスキー・メディアワークス

図書館戦争シリーズの番外編といえる作品です。二〇一九年。公序良俗を乱し人権を侵害する表現を取り締まる「メディア良化法」の成立から三〇年後、メディア良化委員会と図書隊が抗争を繰り広げる日本が舞台。タイトルからすれば、難しそうと中高生には敬遠されそうですが、内容は、本に関わる問題、図書館を利用するマナーなどがわかりやすく織り込まれた甘いラブコメディです。本編を読んでなくても楽しめる作品です。

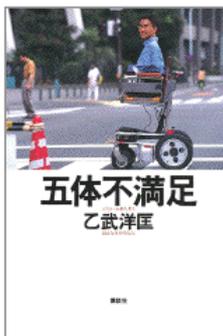
新城図書館



- 獣の奏者
- 上橋菜穂子／作
- 武本糸会／絵
- 講談社

生き物が生きる意味は何でしょう。王獣のランや人々の関わりの中で答えをさがす少女エリンは、やがて国の統治をめぐる争いに巻き込まれていきます。絶望の中、最後にエリンが見つけた答えとは。「守り人シリーズ」で知られる作家、上橋菜穂子による長編ファンタジーです。普通の物語ではどこか物足りない、と感じている方におすすめです。長い物語ですが、どんどん引き込まれ、最後のページをめくるのが惜しくなる、そんな一冊です。

新城図書館



- 五体不満足
- 乙武洋匡
- 講談社

先天性四肢切断という宿命を背負って生まれた著者が、自らを語ります。これだけ重い障害をもちながら、彼は「障害ではなく、不便だけ。多くの友人に囲まれた生活に、何ひとつ不満はない」と言うのです。その強さ、明るさはなぜ？ どこから？ この本を読めばそれがわかります。読んだ人の中で必ず、確実に何かが生まれ、どこかが変わります。きっと勇気や元氣がもらえる、そんな一冊です。

東栄町立図書館

- カラフル
- 森絵都
- 理論社



大きな過ちを犯して死んだ主人公に、下界に降りるチャンスが与えられます。見知らぬだれかの体を借りてその人物になり、前世に犯した罪を思い出さなければなりません。その中で、自分自身を見つめなおし、「家族や友情」そして「生きる」という意味そのものが主人公の心の中でうまく熟成されていく様子が、自然に伝わってきます。

自分のまわりにおいてくれる様々な人たちの温かさ、大切さを改めて思い直すことのできるような気持ちにさせてくれます。子どもから大人まで、ぜひ読んでほしいと思える本です。

東栄町立図書館

- 黒い雨
- 井伏鱒二
- 新潮社



黒い雨というタイトルから推測できるとおり、原爆が投下された広島での人々の生活が描かれている作品です。主人公は、妻とともに広島で被爆。その直後からの状況が日記という形で生々しく伝わってきて、恐ろしい事実に向面した庶民がどのような悲惨な生活を送ったのか、垣間見ることができます。

投下直後のパニック、被爆者の差別、原爆症の苦しみ、貧しい生活など、目を背けたくなるような事実が描写されています。今でも原爆が原因で苦しんでいる人がいます。だからこそ今を生きる日本人に読んでもらいたい一冊です。

設楽町民図書館

- 健太がゆく！
- ぼくは車イスの中学生
- 小松健太
- 旺文社



生まれながらの脳の障害で、体がうまく動かない健太。それでも電動車イスに乗って大家族の中で元気に成長していきます。将来、一人暮らしをしたいという夢に向かって、中学進学にあたり養護学校の寄宿舎に入ることになりました。多くの友だちに出会いながら、障害のことを悲しんだり、不幸と思ったりせずに、今でも、自分で歩けるようになることを目指して頑張っています。あきらめないこととの大切さ、生きていることのすばらしさを教えてくれます。

笑顔が一番！

